



山五小

おひさま通信

ホームページ「山形市立第五小学校」で検索

平成28年度
1月号

山形市立第五小学校
平成29年1月30日
校長 三森 聡

◇◇学校評価についてお知らせします◇◇

< 回答率 児童 99.2%・保護者 94.7% >

I 学校経営目標と重点

居心地のいいあたたかい学校

運動大好き
友達大好き
勉強大好き

子ども達につけたい力

自尊感情

授業づくり「質の高い学び合い」

- 基礎・基本の確実な習得
- 探究的な学び・活用力の育成
- 学び方（できる方法・道筋）の育成

自分づくり「自己肯定感を高める」

- 個々が活躍する場の設定
- 自他の成長の振り返り
- 自己表現できるスキルの獲得

仲間づくり「あたたかい関わり」

- あこがれや支え合いのある異学年交流
- 絆を生む「あたたかな関わり合い」
- 地域のよさを共有したつながり合い

II 児童のアンケートから

(1) 「自尊感情」

27年度より課題としていた「自尊感情」について、「全くそう思う」と「概ねそう思う」を合わせて84%となり、昨年度の83%とほぼ同数であった。児童一人一人に自信をもたせる取り組みをより一層工夫し、更なる伸びをめざしていきたいと考えている。

(2) 「自己有用感の醸成」

自己有用感については、昨年度76%→72%と下がった。特に、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と回答している児童が、全体の4分の1を超え大きな課題と捉えている。今後、より「自己有用感」を高めていく手立て・工夫を考えていきたい。

(3) 「体づくり」

「友達と元気に外遊びや運動を楽しんでいる」と評価した児童が、昨年度88.9%→95.5%と格段に増えた。「運動大好き」の目標を第一に掲げてきた本校の特色である体育研究の効果が現れたと考えている。



持久走記録に挑戦（チャレンジタイム）

(4) 「心づくり」

「友達との温かいかわり」が、昨年度 88.1% → 92.4%と、非常に高い数値を示していた。児童会による「スマイル言葉」の奨励などを通して、あたたかいかわり方の具体的な姿をイメージすることができ、児童一人一人の意識化・行動化につながった。また、「異学年とのかかわり」では、「とても楽しい」と感じている割合が、昨年度 89.3% → 94.2%と大変高く、なかよし班による「挨拶ラリー」をはじめ縦割り班の活動をとっても楽しみにしているなど、価値ある異学年交流を通じた仲間づくりが育ってきていると考えている。



なかよし班での交流会

(5) 「携帯・スマホ・インターネットの使用実態」

メディア機器の使用状況の把握のために昨年度より追加した項目であるが、14.9%の児童が1時間以上使用していることがわかった。また、1・2年生はやっていない児童が半数以上であるのに対し、3年生からの使用頻度が増える傾向にあるため、下学年のうちから、ネットモラルを意識させた正しい使い方やその危険性を教えていく必要があると考えている。

(6) 「学びづくり」

88.8%の児童が、自ら課題をもち解決に向かって学習していると回答しているが、学年・学級等により多少ばらつきが見られた。若干名であるが、「あまりそう思わない」と回答している児童に焦点をあて、探究的な学習につながるような魅力的な授業を工夫していきたいと考えている。



考え方がどんどん広がる学び合い学習

また、話し合いや学び合いなど、他とかかわりながらの学習では、「学び合うことが楽しい」93.3%と非常に良好な評価が得られた。

これは、①課題意識をもつ → ②自力解決を図る → ③考えの交流 → ④学び合い → ⑤振り返りによる新たな課題の設定とする、一連の「学びのサイクル」を取り入れた授業づくりの成果と考えている。

(7) 「学校生活全般」

「五小が楽しく元気に登校できる学校である」と評価をした児童は94.6%と高いが、「そう思わない」とした約5%の児童一人一人の実態を捉え、その要因を探って対応していきたい。

Ⅲ 保護者のアンケートから

(1) 全般的な傾向から

詳しく見ると、昨年度に比べ若干数値が下がったり、変化がなかったりするものはあるものの全ての項目において保護者の皆様から「非常に良好な評価（「そう思う」が40%以上で、かつ「だいたいそう思う」と合わせて90%以上）をいただくことができた。その中でも、今年度98%以上として評価された項目は次のとおりである。

「生活態度の向上」99.0%、「あたたかい人間関係づくり」…98.0%、
 「スポーツ・文化活動による活力ある学校づくり」……………99.4%
 「開かれた学校づくり」98.4%、「情報のわかりやすい伝達」・98.4%
 「保護者のみなさんの相談への迅速・的確な対応」……………98.9%
 「PTAと協力したよりよい教育環境づくり」……………98.4%

(2)五小にもっとも期待したいこと

- ①「心の教育」 ②「いのちの教育」 ③「体験的活動の充実」「基礎基本の学力充実」

(3)自由記述から

職員の頑張りに対し多くの励ましの言葉をいただき大変励みになると同時に、その期待に応えられるよう一層努力していかなければならないと心を新たにしました。

更に良くなるアイデアとして下記の意見をいただいた。次年度教育課程編成の際に参考にしたいと考えている。

①施設設備面での改善 ②安全・安心で明るい学校環境づくり ③児童の挨拶や言葉遣い ④学習の基礎基本の定着 ⑤さまざまな「交流」の機会設定 ⑥図書に親しめる環境づくり ⑦PTAの協力体制や組織の改善 ⑧早めの情報伝達 等

IV 学校評議員からの助言

◆木村委員より

1. 本校の学校教育のキーワードとして、「自尊感情の育成」を掲げているが、とても重要なことである。この大きな目標に向かって、先生方が一丸となって日々実践していることがよくわかる。「自己有用感」の更なる伸びをめざし、「自分にはこんな良いところがある」「自分は役に立っている」ところを自分の言葉できちんとと言える子どもに育ててほしい。このことは、学校・家庭両者で確認していきたい。
2. 学習指導要領の改訂にともない、テストの成績だけで判断するのではなく、思考力・表現力・判断力を身につけていかなければならないことを、保護者にも理解してもらわなければならない部分も多い。自分の行動の意味づけを毎日の生活の中で積み重ねていくことが重要である。
3. 時代の流れとともに、地域で子どもたちが育つという部分が薄れてきている中、地域を巻き込んだ授業や交流活動を通して地域とのつながりの芽が育ってきたことは嬉しい。



評価分析をもとに協議し合う学校評議員

◆小野寺委員より

1. 地区社協の「家庭の日」の標語及び絵画活動の取り組みを通じた親子のふれ合いが年々高まってきている。校外でも更にふれ合いが深められるような活動を考えていきたい。
2. 「山形市民歌」や「スポーツ県民歌」など郷土の歌を歌う機会をぜひつくって欲しい。歌は、一体感を持たせることにもなるので、儀式等で歌い継ぐなど大事だと思う。
3. 保護者が期待する項目に「心の教育」や「いのちの教育」の充実があったが、これまで本校で実践している「薬物乱用防止授業」や「ネットモラル授業」、「いのちの学習」(性教育)など大変価値があり、まさにいのちの教育にも直結する。今日のように授業を公開して保護者に積極的に発信していくことも重要である。

◆齋藤委員より

1. 親同士の関わり合いも薄くなってきているのが大きい。
2. 携帯電話やゲーム機を子ども達が持ち合っている姿がある。ネットモラル教育について、今後も学校と家庭とが連携した指導体制が必要である。
3. 自己有用感を抱いていない子どもに、今後しっかり見守っていきたい。
4. 保護者アンケートの「活力ある学校づくり」や「開かれた学校づくり」の項目などは、非常に高い評価を示している。良いところは更に伸ばしていくことが大事だが、評価されていない方がごく僅かでもいるということから、「0」に近づけていくことも、今後重要である。

◆村山委員より

1. 「自己有用感」を育てていくためには、結果だけでなくそのプロセスを大事にしていくことが重要。引きこもりの青年の様子を見てきているが、「自信がない」「自分には良いところがない」ことから、なかなか社会に出て行けないことがある。どんなことでもほんの小さな頑張りを見つけてあげることが大事である。とても難しいことだが、学校の他、家庭・地域に関わる周りの大人達で見つけていけるような運動が広がればいい。

◆有川委員より

1. 「自己有用感」を高めていくために、係活動やあらゆる場面において、友達や家族が子ども達を認めていくことがとても大事である。家庭では、じっくりとその子の話を聞いてあげることが大事。地域でも協力していきたい。
2. メールやインターネットを「している」の人数の割合が52.3%と多く、半数を超えていることに驚いている。
→この52.3%には、携帯電話やパソコン以外で、DSなどの通信ができるゲーム機などもカウントされている。



情報モラル学習

◆佐藤委員より

1. 学力が高いのは学習塾などの習い事のカもあるのかと思う。先生方も先取りした楽しい授業を行うことを心がけてもらいたい。体力面に関しても、スポ少に通う子ども達が少なくなり、運動する機会が不足しているし、休み時間に夢中になって遊ぶことや、いろいろな遊びを知らない子どもたちが多いのではないかと。
2. 「心の育成」の充実を保護者は望んでいるようだが、高学年であっても心が幼いことがある。いじめ等があった場合は、子ども達と真摯に向き合い対応をしていって欲しい。
3. 地域とのかかわりについては、PTAとしてもこれまで連携をして進めてきている。次年度も様々なアイデアで魅力ある活動をしていけるように期待していきたい。

◆土屋委員より

1. 学力面も体力面でも高い結果なのは素晴らしい。ただ「考える力」「先を読む力」が足りないように思う。より深く考えたり、見通しを持ったりすることができない。同じことでも、繰り返し学ぶことで身につけていくこともたくさんあるのではないだろう。
2. 3年生の「豆腐づくりに挑戦」の探究的な学習のように、失敗を繰り返しても最後にはやり遂げたことで確かな力と自信を得ている。子ども達にとって、そういう成就感のある活動を期待したい。